

# 2016年3月期 第2四半期決算説明資料

---

ジオマテック株式会社

2015.11

# 第2四半期業績結果について

# 連結業績概要 (15年4月1日～15年9月30日)

	2015.9	2014.9	対前年 増減額 (増減率)	
売上高 (百万円)	5,059	5,721	△ 661	(△ 11.6%)
営業利益 (百万円)	△ 100	465	△ 566	(－)
経常利益 (百万円)	△ 80	522	△ 602	(－)
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	△ 100	502	△ 602	(－)
1株当たり四半期 純利益 (円)	△ 12.70	63.52	△ 76.22	(－)

加工高 (百万円)	3,845	4,569	△ 724	(△ 15.8%)
-----------	-------	-------	-------	-----------

(\*)加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を引いた、成膜分の売上(付加価値収入)のことです。  
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

# 財務概要

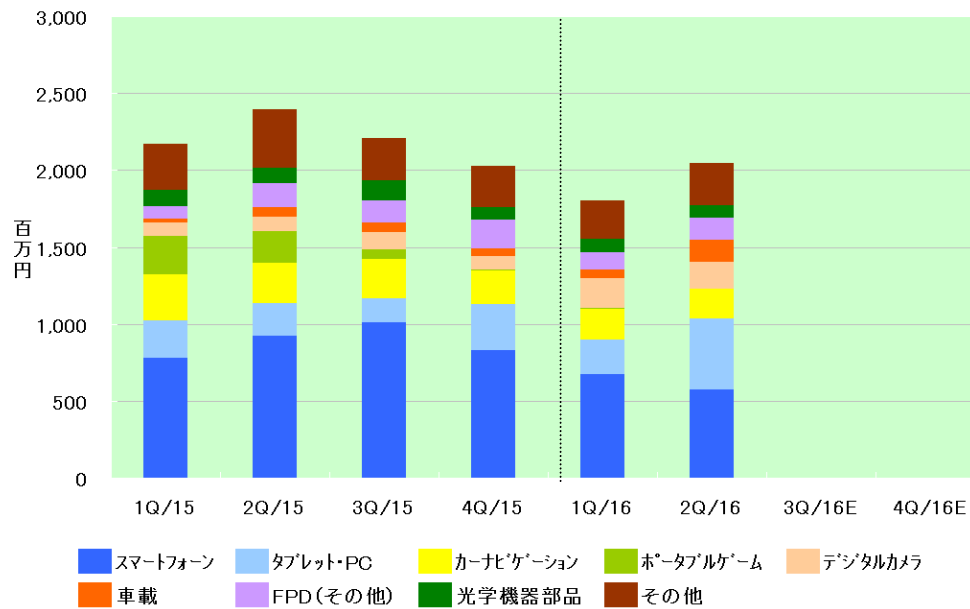
	2015.9	2015.3	前期末比較 増減額 (増減率)	
総資産 (百万円)	32,216	33,739	△ 1,523	(△ 4.5%)
純資産 (百万円)	19,302	19,484	△ 182	(△ 0.9%)
自己資本比率 (%)	59.9	57.8	2.1	
1株当たり純資産 (円)	2,440.10	2,463.22	△ 23.12	(△ 0.9%)

# キャッシュフロー概要

	2015.9	2014.9	前年同期比較 増減額 (増減率)	
営業活動によるCF (百万円)	218	503	△ 284	(△ 56.6%)
投資活動によるCF (百万円)	△ 681	△ 669	12	( 1.9%)
財務活動によるCF (百万円)	△ 648	△ 608	40	( 6.6%)
現金及び同等物残高 (百万円)	9,493	8,853	640	( 7.2%)
(同借入金相殺後) (百万円)	7,821	7,213	608	( 8.4%)
設備投資額 (百万円)	311	258	53	( 20.7%)
減価償却費 (百万円)	488	521	△ 33	(△ 6.4%)

# 加工高推移

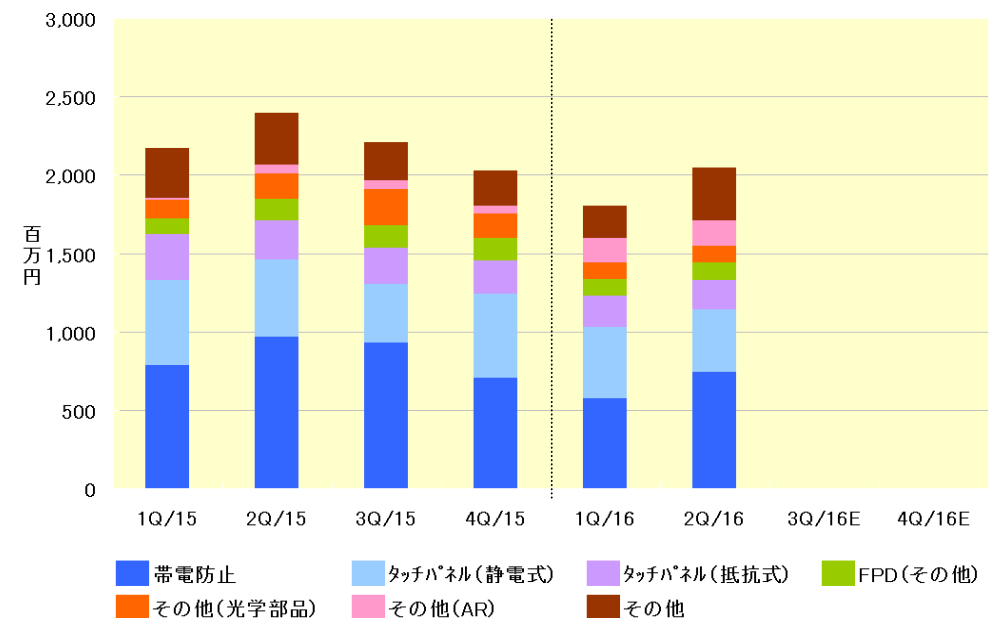
最終製品別加工高推移



← 15.03期実績 →

← 16.03期実績 →

品目別加工高推移



← 15.03期実績 →

← 16.03期実績 →

※加工高とは売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた成膜分の売上(付加価値収入)のことです。

## 第2四半期(累計)業績概況

### ■ 連結業績概要

- ・中小型液晶パネルの企業間競争の激化や中国製スマートフォンの伸び率鈍化により、中国メーカー向け受注数量が大幅に低下、厳しい状況で推移
- ・売上高は、デジタルカメラ向け反射・防汚膜の販売は伸びたが、中小型液晶パネル・タッチパネル関連製品の販売数量が低調に推移したことから、前年同期比減収
- ・損益は、液晶パネル関連製品の売上高が減少したことから、前年同期減益

### ■ 製品概要

- ・液晶パネル用基板(帯電防止膜)・・・(25.1%減)
  - ・北米メーカー(スマートフォン・タブレット端末)向けで、新機種販売に合わせた受注の増加はあったが、中国メーカー(スマートフォン・タブレット端末)向けの需要鈍化による大幅な受注減少により全体として前年同期比減収
- ・タッチパネル用基板(抵抗方式)・・・(29.7%減)
  - ・カーナビ向け抵抗式タッチパネルの受注減少により前年同期比減収
- ・タッチパネル用基板(静電容量方式)・・・(17.0%減)
  - ・ポータブルゲーム機向け及び、中国メーカー(スマートフォン)向けの受注減少化により前年同期比減収
- ・その他 ・・・(18.9%増)
  - ・デジタルカメラ向け(反射防止・防汚膜)の受注増加により前年同期比増収

# 2016年3月期業績見通しについて




# 市場環境について

## 競争環境における機会

- ディスプレイ技術における差別化競争
- 車載向けディスプレイへの需要
- ノートPCからタブレットPCへの置き換わり

## 競争環境における脅威

- 先進国におけるスマホ需要の減速
- 新興国向けローエンドモデル比率の増加
- 海外液晶・タッチパネルメーカーの低価格攻勢
- パネルメーカーの成膜加工内製化



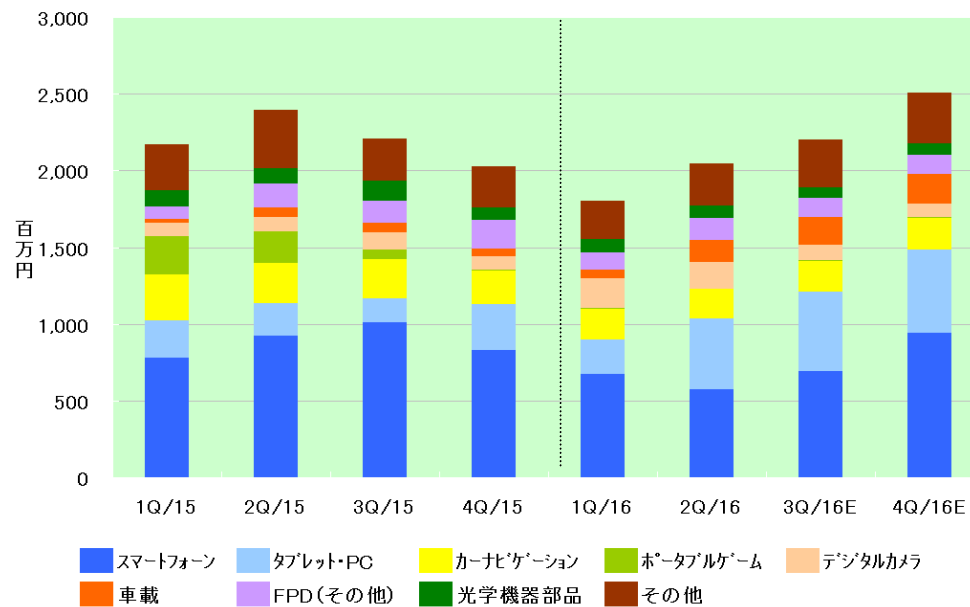
日本製ディスプレイの関わるスマホ需要は成熟期に突入。  
当社としてはスマホやタブレット向けへのコスト競争力を強化する一方、  
車載市場等の新たな市場への製品展開を図る。

## 2016年3月期業績見通し

	2016.3	2015.3	前年同期比較 増減額 (増減率)	
売上高 (百万円)	10,600	11,164	△ 564	(△ 5.1%)
営業利益 (百万円)	270	693	△ 423	(△ 61.0%)
経常利益 (百万円)	300	745	△ 445	(△ 59.7%)
親会社株主に帰属する 純利益 (百万円)	250	922	△ 672	(△ 127.1%)
加工高 (百万円)	8,550	8,803	△ 253	(△ 2.9%)
研究開発費 (百万円)	450	447	3	( 0.7%)
設備投資額 (百万円)	880	1,001	△ 121	(△ 12.1%)
減価償却費 (百万円)	1,110	1,111	△ 1	(△ 0.1%)

# 加工高見通し

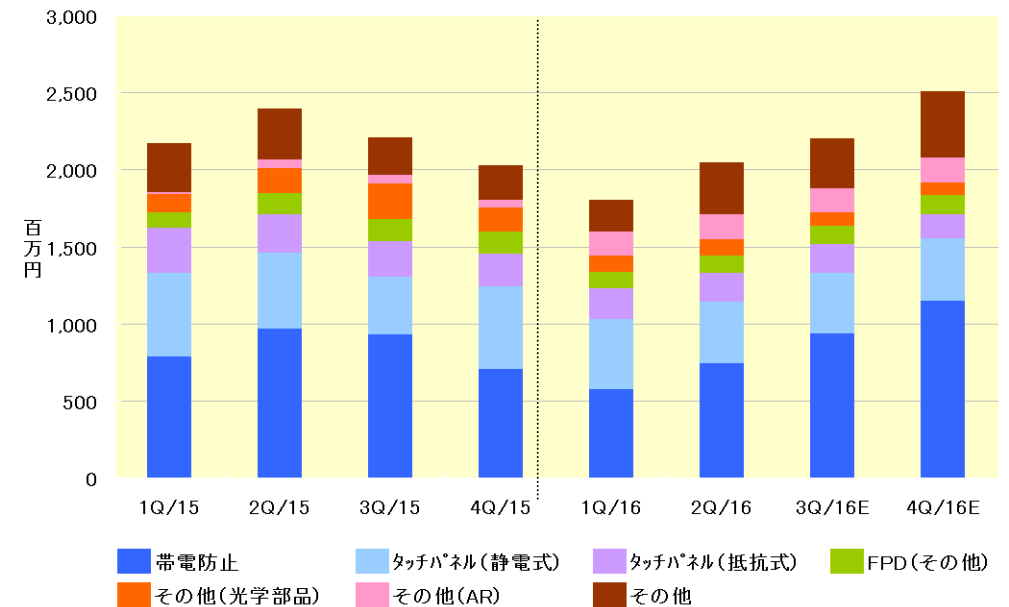
最終製品別加工高推移



← 15.03期  
実績 →

← 16.03期  
見込み →

品目別加工高推移



← 15.03期  
実績 →

← 16.03期  
見込み →

※加工高とは売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた成膜分の売上(付加価値収入)のことです。

# 取り組みについて

---

## ■既存分野への取り組み

- IPS液晶用帯電防止膜の増産対応とコスト競争力の強化
- 技術の差別化における高透過膜、高/低抵抗膜、金属膜の対応
- Film成膜製品の受注強化

## ■新規分野への取り組み

- 試作・小ロット品の生産増強と生産性の向上
- AR膜や撥水膜の製品ラインアップの強化
- 車載市場への成膜製品展開

ご清聴いただき、ありがとうございました

# 注意事項

- ・ 情報提供の目的

当資料の目的は、当社への理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。なお、掲載されている情報は、細心の注意を払って作成しておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。当資料のご利用により、被害・損害が発生したとしても、当社は一切責任を負うものでないことをあらかじめご了承ください。

- ・ 将来予測に関する考え方

当資料に掲載されている情報には、当社の計画、予測など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断および仮定に基づくものであり、既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、当社の業績、事業活動、財務状況は、見通しと大きく異なる場合があります。